

試聴会・訪問記掲載

オーディオユニオン試聴会報告(2025.4.20)(HP 掲載)

1. はじめに

オーディオユニオン大阪店で開催された AIR TIGHT&TAD&ANALG RELAX の試聴会に行ってきました。

2. 開催要項と使用機器等

AIR TIGHT 管球式セパレートアンプ、Transrotor + GRANZ のアナログシステム、ANALG RELAX のカートリッジ、TAD スピーカーの組み合わせによるアナログ盤の試聴です。

【開催日】 4 月 20 日(日)

【開催時間】 13:00～14:30

【開催場所】 オーディオユニオン大阪店試聴コーナー

【使用機材】

AIR TIGHT : ATC-7/ATM-3211/ATE-3011/ATH-3s

Transrotor : ZET-3 TMD 仕様、GRANZ/刀

Analog Relax : AR-MCC-EX2000/EX1000/EX500/EX300

TAD : TAD-CR1TX-EB/TAD-ST1

【講師】

エイ・アンド・エム:須田氏、ズートコミュニケーション万木氏



3. 試聴の経過

当日のセッティングは下記のとおりです。



アナログプレイヤーとトランス



プリアンプとフォノイコライザー



スピーカーと管球式パワーアンプ

使用機器のラインアップは、カートリッジが AR-MCC-EX2000 と EX1000、プレーヤーが ZET-3 TMD 仕様に GRANZ 刀を 2 本装着、トランスが ATH-3s、フォノイコライザーが ATE-3011、プリアンプが ATC-7、パワーアンプが ATM-3211、スピーカーが TAD-CR1TX-EB です。

まずは、カートリッジが AR-MCC-EX1000 で、ダイアナ・クラールのパリでのライブ収録から始まりましたが、クリアでライブ感はありませんでしたが、定位は曖昧です。

次にヒラリー・ハーンのバッハのヴァイオリン協奏曲ですが、押出はよいもののヒラリー・ハーンのヴィヨームの繊細な響きや、バロックアンサンブルの音の精度もいまひとつです。

ドナルド・フェイゲンが切れがよく、パワーアンプの駆動力によりスピーカーの制動がよく聴いています。

さらにカートリッジを AR-MCC-EX2000 に代えて、女性ボーカルがかかりましたがクリアな響きです。

続いて、ロック調の曲とレイ・ブラウンのベースの曲は、この組み合わせの力量を発揮していましたが、レイ・ブラウンのトリオのピアノの音は、ピアノの機種が分かりにくかったです。

次は、ムターとジョーン・ウィリアムスのヴァイオリン協奏曲でしたが、ムターのヴィブラートの聴いたボウイングは十分に再現されておらず、演奏会の印象との落差に戸惑いがありました。

女性ボーカルで AR-MCC-EX2000 と EX1000 の聴き比べがあり、ボーカルの細かいニュアンスの表現で前者に一日の長があり、講師の EX200 は特に女性ボーカルに薦められるという話は首肯できました。

以後、ロック、ジャズボーカル、ドラムソロと続きましたが、切れがよくドラムソロなどは制動が効いた迫力のあるものでした。

締めくくりは、ボズコフスキーの弾き振りのニューイヤーコンサートのライブ収録らしいラデスキー行進曲でしたが、ウィーンフィルの弦の優雅な表現には届かなかったようです。

フォノイコライザーの ATE-3011 は、イコライジングカーブを、ターンオーバーとロールオフで各 5 ポジション (RIAA/NAB/AES/FFRR/FLAT) が選択できる機能を搭載し、ターンオーバー/ロールオフの個別切り替えによって、さまざまなカーブが再現できるとのカタログの記載がありますが、実際にカーブ切り替えのデモはありませんでした。

アナログリラックスの製品はレコードブラシを、GRANZ の製品は、MH-9Bt を使用しており、満足度は高いものです。

4. まとめ

アナログシステムの潜在的なポテンシャルの高さは感じられましたが、スピーカーも含めたトータルのシステムとしては、曲のジャンルを選ぶ傾向がありました。

以上